

# 農業の新しい技術

No. 704(平成28年5月)  
分類コード 02-09  
熊本県農林水産部

## 紅が濃く見栄え抜群の早生カンキツ「みはや」の高品質果実生産技術

農業研究センター 果樹研究所常緑果樹研究室  
担当者：相川博志

### 研究のねらい

早生カンキツ「みはや」は、果皮が鮮やかな赤橙色で外観が美しく、糖度が高く酸味の少ない食味の良い品種であるが、圃地条件や気象条件により糖度のバラツキが大きく品質が安定しにくい。また、完全着色期以降に果実陽光面で褪色がみられ、特長ある赤橙色の美しさを十分に発揮できない。そこで、紅が濃く見栄え抜群で高糖度の「みはや」が生産出来る栽培技術を確立する。

### 研究の成果

1. 「みはや」は、8月上旬から樹冠下に透湿性シートを敷設するシートマルチ栽培をすることで、糖度は無マルチ栽培より高く、12月上旬には13以上となる。また、クエン酸濃度は、シートマルチの有無に関係なく、12月には1%以下となる(図1)。
2. シートマルチ栽培の果実は、露地栽培より肥大がやや緩慢となる(図2)。
3. 褪色する果実は、樹冠外周部で発生が多く樹冠内部は少ない。また、方位では南向きの果実で発生が最も多く、北向きは少ない(農業研究成果情報 No748 平成28年5月)。
4. 果面を保護する資材は、白色化繊布が果皮の赤みが強く、褪色発生度が低く、被袋時間は他の資材の半分である(農業研究成果情報 No748 平成28年5月)。また、仕上げ摘果後から着色開始期までに白色化繊布で果実を被覆すると褪色軽減効果が高い(図3)。

以上のことから、早生カンキツ「みはや」は、8月上旬からシートマルチを行い樹体に水分ストレスを付与し、仕上げ摘果後、褪色を軽減するため樹冠外周部の果実を中心に白色化繊布を被覆することで、12月上旬に糖度13以上かつ紅が濃く見栄え抜群の「みはや」を生産することができる。

### 普及上の留意点

1. 本成果は、所内の「みはや」に透湿性シートを8月上旬から被覆した結果である。
2. シートマルチ栽培を行うとやや小玉果になるため、果実の初期肥大促進を目的に、7月上旬に内成り・裾成り果実を中心に摘果する。また、着果が多い場合は外成りの直果・傷果も同時に摘果する。
3. 仕上げ摘果期に白色化繊布を被覆する場合、果径が小さい果実は白色化繊布が外れやすいため、果梗部を針金等で留める等外れにくくする対策を行う。
4. 樹冠内部の果実は、褪色の発生がほとんどなく果皮色は良好であるが、樹冠外周部の果実と比較して糖度が低い。

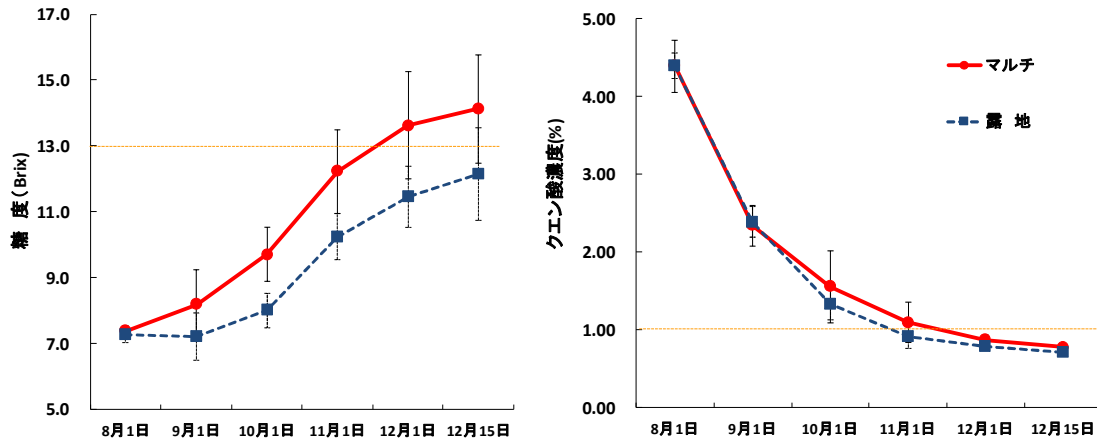


図1 シートマルチ栽培「みはや」果実の糖度(Brix)とクエン酸濃度の推移(2012年～2014年の3カ年平均値)

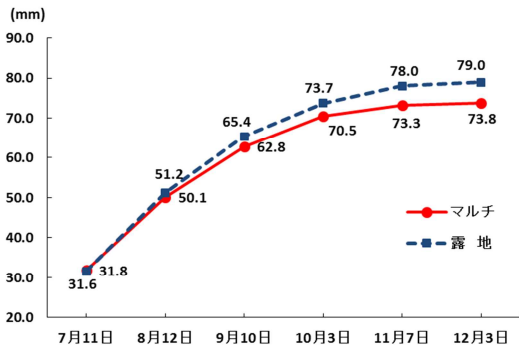


図2 シートマルチの有無による「みはや」果実の横径推移(2014年)

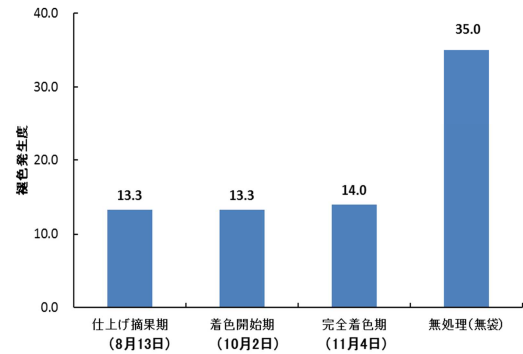


図3 白色化繊維布の被覆時期の違いによる「みはや」果実の褪色発生度(2015年)



図4 果実に白色化繊維布の被覆を行ったシートマルチ栽培樹



図5 褪色した果実(左)と正常な果実(右)